2章　熊谷の景観の捉え方

1. 景観とは

熊谷市景観計画では「景観」を、「身の周りの屋外の状況を見たときの眺め」とします。すなわち、普段私たちが目にしている山や川、木々、街並みなどの全てを「景観」と捉えます。

さらに、「風景」を「人々の営みの姿や五感によって生じる感情を伴う眺め」とします。すなわち、目にする眺めを、その裏側にある歴史や伝統、雰囲気、自らの思いなどの視点も踏まえて捉えていくことです。

2. 熊谷の景観資源

景観を構成する一つひとつの要素を「景観資源」と言います。景観は、その背後にあるイメージ・雰囲気等も含めて理解されるため、地域の歴史・文化や生活との関わり方などが大きく影響を与えます。本市でも過去から現在まで、様々な景観資源が積み重なって、「地域の景観」が形成されてきたと言えます。

景観資源については、様々な捉え方をする事が出来ますが、ここでは、大きく「自然系」「歴史系」「近・現代系」、そして「活動・生活系」の4つの分類から、代表的な「熊谷の景観資源」を捉えることとします。

【自然系景観資源】

基本的な景観の骨格を形づくり、地域特性に多大な影響を与える景観資源を捉えます。
例：川・樹木・田・畑・動植物の生息地等

【歴史系景観資源】

過去の社会・経済やまちづくりの状況等の歴史的な流れを伝えてくれる景観資源を捉えます。
例：古墳・遺跡・歴史的建造物・寺社等

【近・現代系景観資源】

近・現代の産業、文化、生活を反映する土地利用、交通網、建築物等の景観資源を捉えます。
例：大規模建築物・橋・鉄道・道路・住宅・商店・デパート・工場等

【活動・生活系景観資源】

常時あるものではないが、市民の生活や活動の中で生まれ、意識の中で育まれる景観資源を捉えます。
例：祭や行事、人の活動等

自然系景観資源例



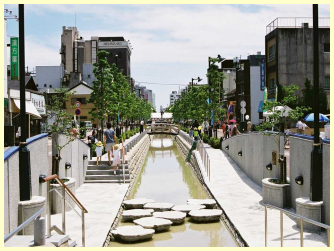


歴史系景観資源例





近・現代系景観資源例





活動・生活系景観資源例





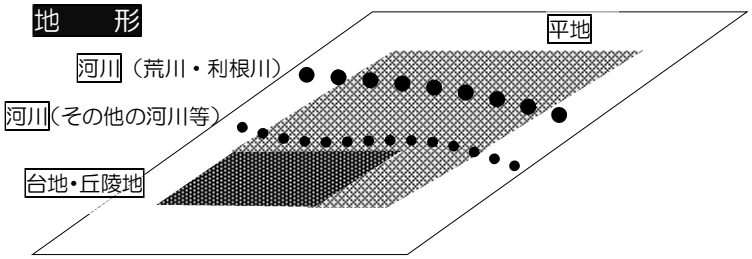
3. 熊谷の景観の構成

(1) 景観の構成による区分

前項（2. 熊谷の景観資源）で熊谷の景観資源を 4 つの分類から捉えましたが、これら個々の景観資源が相互に係わり合い、重なり合うことによって一つの景観を構成しています。こうしたことから、本市の景観の特徴や課題を検討するに当たっては、景観資源を個別に捉えるだけでなく、景観を大きく面的、線的、点的な視点等から捉えることが必要となります。ここでは、景観の構成を、大きく「地形」、「土地利用」、「活動軸・活動拠点」に区分し、熊谷の景観の特徴を捉え課題を抽出します。

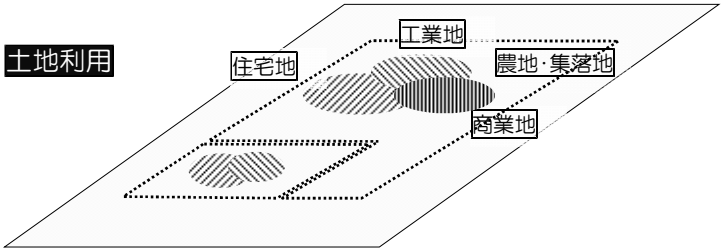
【地　　形】

地形の特徴から『平地』、『台地・丘陵地』、『河川』に区分します。また、『河川』については、「荒川・利根川の大河川」と「その他の河川等」に区分します。



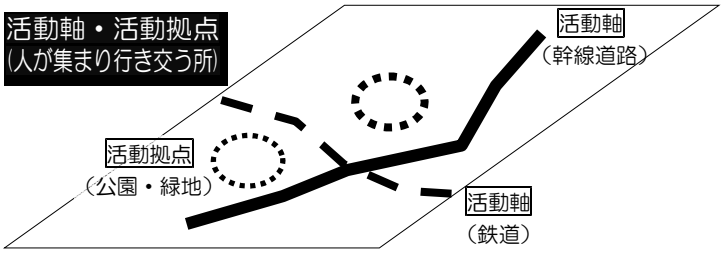
【土地利用】

土地利用の特徴から『平地』、『台地・丘陵地』の地形区分を、「農地・集落地」、「住宅地」、「工業地」等に区分します。



【活動軸・活動拠点】

多くの人々が集まり、行き交う公共の空間という視点から、『活動軸・活動拠点』として「幹線道路」、「鉄道」、「大規模な公園・緑地」を位置付けます。



1	平　　地	（①農地・集落地　②住宅地　③工業地　④商業地）
2	台地・丘陵地	（①樹林地・集落地　②住宅地　③工業地）
3	河　　川	（①荒川・利根川　②その他の河川等）
4	活動軸・活動拠点	（①幹線道路　②鉄道　③大規模な公園・緑地）

【景観の構成】

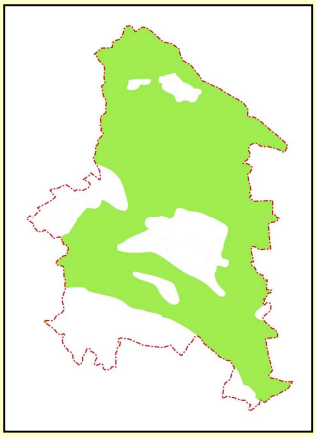

男体山
赤城山
榛名山
浅間山
妙義山
1 平地
1-①農地・集落地
1-②住宅地
1-③工業地
1-④商業地
2 台地・丘陵地
2-①樹林地・集落地
2-②住宅地
2-③工業地
3 河川
3-①荒川・利根川
3-②その他の河川等
4 活動拠点・活動軸
4-①幹線道路
4-②鉄道
4-③大規模な公園・緑地
利根川
利根川総合運動公園
妻沼運動公園
備前渠用水路
福川
新奈良川
別府沼公園
国道407号
国道17号
JR高崎線
上越・北陸新幹線
熊谷運動公園
熊谷スポーツ文化公園
星川
中央公園
秩父鉄道
荒川大麻生公園
熊谷荒川緑地
忍川
元荒川
和田吉野川
荒川
江南総合公園
和田川
森林公園
通殿川
秩父山系
富士山

(2) 景観の構成別の特徴・課題（景観を形成する大きな構成別の特徴・課題を示します。）

1 平地

① 農地・集落地

≪特徴≫



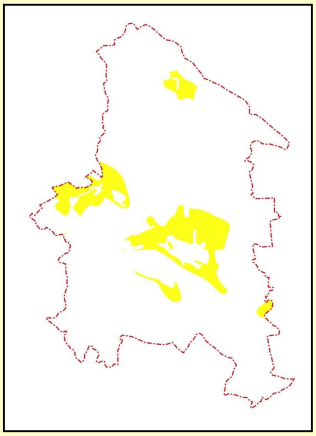
- 水田、麦畑、野菜畑等、多様な田園景観が広がる。
- 寺社林・屋敷林が点在する。
- 建築様式の変化により従来の田園景観が変わりつつある。
- 建築物等の外壁は、暖かみがあり落ち着いた色が大部分であるが、一部、あざやかなものや四季により変化する緑の中で極端に目立つものも存在する。
- 開発等による屋敷林の減少、農地の荒廃等が一部見られる。
- 遊休農地の増加が見られる。
- 遊休農地などへの廃棄物、土砂等の堆積が見られる。

≪課題≫

- 既存樹木や田園風景（緑地・農地・集落地などの一体的な眺めの維持・保全が求められる。
- 建築物・工作物等の立地や廃棄物等の堆積等について、周辺の緑地・農地への調和や配慮が求められる。

② 住宅地

≪特徴≫



- 熊谷駅、籠原駅及び妻沼聖天山周辺を中心とした古くからの住宅地が存在する。
- 古くからの住宅地周辺に新たな住宅地の広がりが見られる。
- 建築物の多くが低層戸建住宅である。
- 農地との連続性が一部見られる。
- 熊谷駅及び籠原駅周辺並びに国道沿道を中心として中高層住宅の立地が見られる。
- 住宅の外壁は、暖かみがあり落ち着いた色が大部分であるが、一部、あざやかな目立つものも存在する。
- 狭小敷地の住宅が存在する。
- 緑が少ない住宅地が存在する。

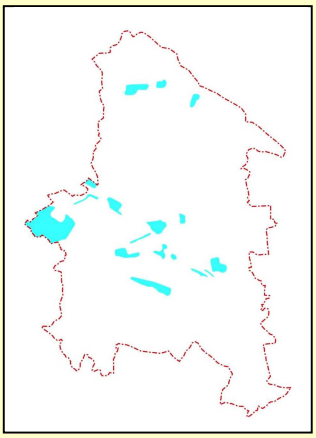
≪課題≫

- 建築等に際しては、既存の住宅の街並みと調和した色・配置・デザインとなるよう配慮が求められる。
- 住宅地の環境対策と潤いの創出の点から、道路等の公共空間（国・県・市が有する道路・公園・河川等）からの緑の見え方にも配慮した敷地内緑化が求められる。

③　工業地

≪特徴≫

- 工業地が、市の中心部、西部、北部に点在する。
- 緩衝緑地が確保され、道路等の基盤施設が整い、大規模工場が立地する場所がある。
- 田園の中に立地し、施設や工作物が目立つものがある。
- 地区内に、遠方から視認性の高い鉄塔や煙突などの工作物が存在する場所がある。



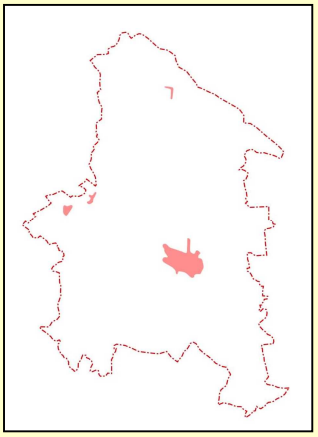
≪課題≫

- 道路等の公共空間からの緑の見え方など、景観への配慮が求められる。
- 建築等に際しては、隣接する住宅地や農地と調和したデザインや外観となるよう配慮が求められる。

④　商業地

≪特徴≫

- 熊谷駅周辺や妻沼聖天山周辺では、歴史資源が集積しているとともに、中心市街地活性化の取組みが行われてきた。
- 外観整備、意匠を工夫した街路灯の設置など、景観に配慮した事業が実施された商店街がある。
- 夏の暑さ対策やバリアフリー化等により人にやさしい商業地づくりが進められている。
- 絵看板や案内板の設置、イベントの実施など、にぎわいづくりに取組む商店街がある。
- 熊谷駅周辺については既存商業地と大型店舗が混在している。
- 空き店舗や駐車場などが増加している商店街がある。
- 熊谷駅周辺については夜間照明がにぎわいを演出する一方、景観を阻害している場所がある。



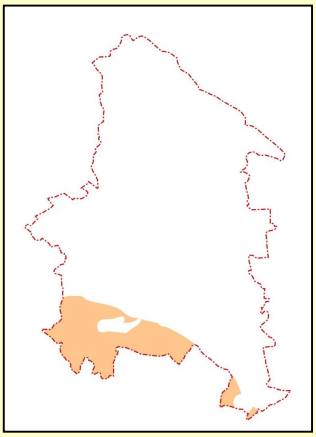
≪課題≫

- にぎわいを感じる景観づくりが求められる。
- 道路等の公共空間からの見え方にも意識しながら、にぎわいのなかにも統一感が感じられる建築物の外観のデザイン等や夜間照明の方法等が求められる。
- 環境対策の観点から緑化の推進が求められる。

2 台地・丘陵地

① 樹林地・集落地

≪特徴≫



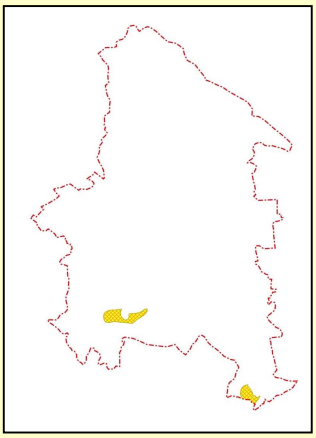
- まとまって樹林が広がっている。
- 緑地や寺社林、屋敷林が残っている。
- 台地・丘陵地と平地との境目にある斜面地から市街地を眺望できる。
- 台地・丘陵地と平地との境目に斜面林が連続している。
- 市街地から眺めた時に、樹林が、遠方の山々と一体となった緑の眺望の対象となっている。
- 斜面地に大規模な事業所が立地し、緑の連続性が失われている場所がある。
- 建築物が斜面緑地の眺望の阻害要因になっている場所がある。
- 斜面地の開発等により建設された擁壁が、周囲の景観と調和していない場所がある。
- 斜面地で土砂の採取等により、山肌が露出して緑の連続性が失われている場所がある。
- 建築物等の外壁は、暖かみがあり落ち着いた色が大部分であるが、一部、あざやかなものや四季により変化する緑の中で極端に目立つものも存在する。

≪課題≫

- 樹林や豊かな自然の保全が求められる。
- 土石の採取や開発等の行為後、緑の復元や緑化による緑の連続性の確保が求められる。
- 建築物・工作物等の立地や廃棄物等の堆積等について、周辺の樹林や緑地、農地への調和や配慮が求められる。

② 住宅地

≪特徴≫



- 緑が豊かな古くからの住宅が見られる。
- 新たな開発等では、生垣や敷地内緑化を進んで行う事例が見られる。
- 敷地の細分化による緑の減少も見られる。
- 住宅の外壁は、暖かみがあり落ち着いた色が大部分であるが、一部、あざやかな目立つものも存在する。
- 斜面地の開発等により建設された擁壁が、周囲の景観と調和していない場所がある。

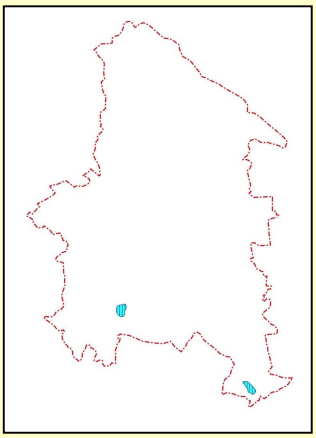
≪課題≫

- 既存の緑の保全とともに、植栽による新たな緑の創出や開発後の緑の復元が求められる。
- 道路等の公共空間からの緑の見え方など、景観への配慮が求められる。
- 建築等に際しては、周辺の緑や既存の住宅の街並みと調和した色・配置・デザインとなるよう配慮が求められる。

③　工業地

≪特徴≫

- 住宅地や樹林地・集落地と隣接している事業所が見られる。
- 既存の樹林を活かしている事業所が見られる。
- 樹林がまとまって広がっている場所がある。



≪課題≫

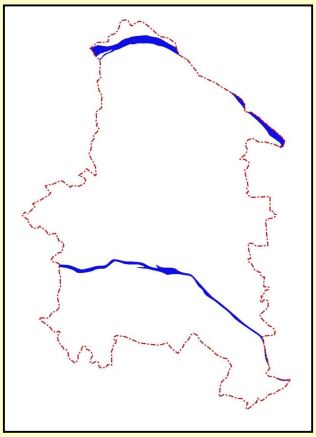
- 既存の緑の保全とともに、植栽による新たな緑の創出や開発後の緑の復元が求められる。
- 道路等の公共空間からの緑の見え方など、景観への配慮が求められる。
- 建築等に際しては、隣接する住宅地や農地と調和した色・配置・デザインとなるよう配慮が求められる。

3 河川

①　荒川・利根川

≪特徴≫

- 雄大な流れを眺望できる。
- 遠方の山々や丘陵地を眺望できる。
- 広大な緑地空間が広がる。
- 魚・鳥・植物など多様な生物が存在する。
- 古くは水運の要衝であった。
- 市民の憩いの場となっている。
- 各種スポーツ・レクリエーションの活動の場である。
- 熊谷桜堤の熊谷さくら祭や熊谷花火大会が開催される。
- 利根川で渡船が運航されている。
- 利根川河川敷で妻沼カップや全日本学生グライダー競技選手権大会が開催されている。

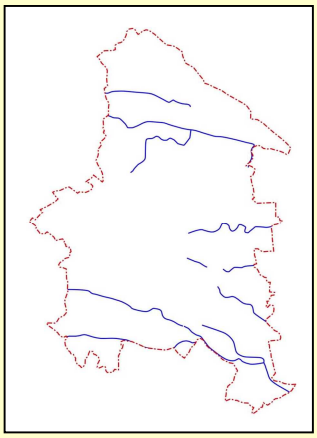


≪課題≫

- 河川がもつ広がりをもった眺めの保全が求められる。
- 河川敷の多様な空間利用や、親水性の向上が求められる。

②　その他の河川等

≪特徴≫



- 多くの中小河川や水路が流れる。
- 大小さまざまな池沼が点在する。
- 市民の憩いの空間となっている。
- 元荒川に日本で唯一のムサシトミヨが生息する。
- 元荒川や星川等で、水質の改善、動植物の保護等の取組みが行われている。
- 地区のシンボルとなる別府沼や大沼、水害の名残である切れ所沼など親水公園として整備されている。
- 四季の変化を感じ、安らぎを与える空間となっている。

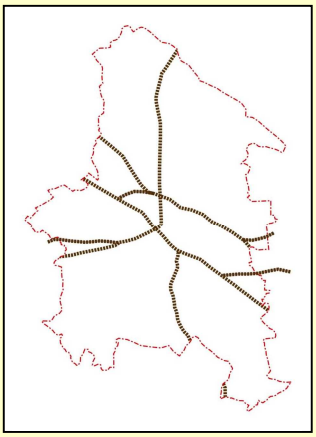
≪課題≫

- 親水性の向上が求められる。
- 沿川の建築物については、川を意識した建て方や外観、土地の使い方に配慮が求められる。

4 活動軸・活動地点

①　幹線道路

≪特徴≫



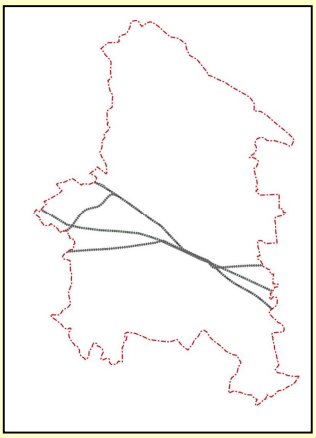
- 交通量の多くを通過交通が占めている。
- 都市部や農村部等、さまざまな景観特性を持った場所を通過する。
- 国道 17 号を始めとした幹線道路では、電線地中化や街路樹の整備など、道路景観の整備が一部進んでいる区間がある。
- 沿道型商業店舗・サービス施設の立地増加による、屋外広告物の増加や大型化、色彩の多様化が見られる。
- 国道 17 号の一部区間がうちわ祭等の会場として利用されている。

≪課題≫

- 市内外の多くの人々が通過することから、熊谷の景観を印象づける沿道景観の誘導、形成が求められる。
- 都市部や農村部を通過することから、地区特性に応じた沿道景観の誘導、形成が求められる。
- すべての人々が安心安全に楽しく歩ける空間づくりを含めた道路景観形成が求められる。また、本市の都市部では、夏の暑さ対策の観点から連続した緑陰の創出が特に求められる。
- 幹線道路と沿道の街並みとが一体となった景観形成を推進することが求められる。

②　鉄道

≪特徴≫



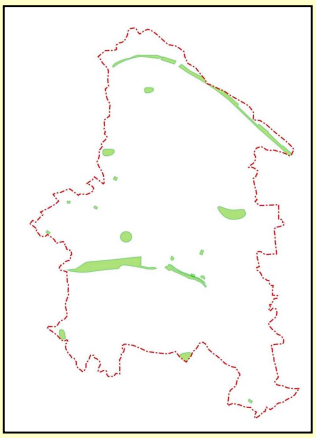
- JR 上越・北陸（長野）新幹線、JR 高崎線、秩父鉄道本線が走り、多くの駅を有している。
- JR 熊谷駅や JR 籠原駅は都心部への通勤・通学等多くの乗降客を抱えている。
- 多くの通勤・通学客が車窓から鉄道沿線を眺望している
- 高架を走る新幹線の車窓や JR 熊谷駅新幹線ホームからは市内の広範囲が眺望できる。
- 秩父鉄道本線には、蒸気機関車や旧型の鉄道車両が走り、観光客等多くの人々を集めている。
- 秩父鉄道沿線では、花植え等の取組みが一部見られる。

≪課題≫

- 車窓からの眺めが本市の印象を左右するため、沿線の建築物・工作物等については、車窓からの眺めを配慮することが求められる。
- 高架構造物は、周辺の街並みと調和するよう工夫が求められる。

③　大規模な公園・緑地

≪特徴≫



- 熊谷スポーツ文化公園は、スポーツ・レクリエーション活動の拠点として市内外から多くの人々を集めている。
- 全国大会の開催により日本各地からの利用者があり、本市を知ってもらうきっかけとなっている。
- 多くの公園があり、市民に潤いとやすらぎを与える空間になっている。
- 大規模な公園は、緑の拠点であるとともに、眺望を楽しむ場となっている。
- 池沼を有するもの、河川に隣接するものもあり、水と緑のネットワークの形成に寄与している。

≪課題≫

- 市内外から多くの人々が集まることから、熊谷の景観を印象づける場とすることが求められる。
- 周辺の建築物・工作物等についてもデザイン等、景観への配慮が求められる。